

氏名： 酒向 治子 (SAKO Haruko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士 (人文科学)
職名： 助教
専門分野： 舞踊学、身体表象文化研究
E-mail： sako.haruko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

ダンスとジェンダー／創作ダンス教育法／ダンスの言語
Dance and Gender / Teaching Methods of Creative Dance / Language of Dance

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・著書 分担執筆「ダンスにおける裸体の表象」『世界の鏡としての身体—シェイクスピアからアニメーションまで』学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学プロジェクト編 2008 年 pp.129-147
- ・論文 共著「ダンスの言語がダンスを変える」『体育科教科』2008 年 3 月号 pp.50-53.
- ・論文 共著「小学校体育学習における表現運動『学習支援デジタル教材』の開発と評価—動画遅延再生装置を利用したソフト（おやつをつくろう）の活用について—」『鳴門教育大学研究紀要』第 23 巻 2008 年 pp.336-349.

◆研究内容 / Research Pursuits

本年度は、2005 年度から 3 年間にわたり関わった学習院大学の表象文化学プロジェクトの研究テーマの区切りとして、米国ニューヨークを拠点に活動し、裸体作品で高い評価を受けている日本人ダンス・アーティストのエイコ&コマ (Eiko & Koma) の裸体アプローチに関する論考を発表した。

また、2005 年度より取り組んでいる創作ダンスの指導法についての二つの研究を引き続き行った。(1) LOD (Language of Dance) を用いた創作ダンス教育法の開発を目指し、基本言語の整備と実験授業を行った。その一方で、(2) 鳴門教育大学教員との共同研究による、小学校低学年の表現運動の授業を想定した、学習支援デジタル教材開発の取り組みを行った。この研究成果は二つの論文にて発表を行っている。

◆教育内容 ／ Educational Pursuits

授業としては、コア科目である「スポーツ健康実習」、「生涯スポーツ（ダンス）」を担当。それ以外では、舞踊教育学講座のパフォーマンス行事（毎年春に開催される創作舞踊公演等）の指導補佐として実技の指導に関わった。

◆研究計画

舞踊をジェンダーの視点から研究する「ダンスとジェンダー」は、欧米の舞踊学においてはなくてはならない研究領域となっています。一方日本では未開拓の状態にあるため、今後も引き続きジェンダーの視点によるダンス研究を続け、日本における「ダンスとジェンダー」という研究領域の発展に寄与できればと考えています。また、本年度は科学研究費の補助の下平成 17 年度から取り組んでいる L O D を取り入れた創作ダンスの教育法の研究を引き続き進める予定である。

◆メッセージ

お茶の水女子大学の文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学講座は、舞踊やスポーツを実技・研究の両面から深くアプローチすることが可能です。少人数制で一人一人の個性に合わせた指導が行われるので、現段階で大学入学後にどのように研究（あるいは実技）を行うか迷っている人でも、全く問題ありません！舞踊やスポーツが好きであれば、可能性は多方向に開かれていると思います。